

## ● 論文発表の内容

顕微授精前の卵子紡錘体の確認の有効性について

徐クリニックARTセンター  
清須知栄子 馬場聖子 徐東舜

### ■【要旨】

ICSI前に非侵襲的に卵子の紡錘体の有無と位置を確認することで、受精率や胚の発育に対する影響の有無を調べた。

対象は、2008年12月から2009年6月の期間にICSIを実施した79周期、467卵子についてデータを検討した。

患者の平均年齢は $36.7 \pm 4.2$ 歳であった。卵子の紡錘体の有無と位置の確認をOosight Imaging System (Cri社製)を用いて行った。紡錘体の位置の確認後、紡錘体を避けるようにしてピエゾドライブでICSIを実施した。

467個の卵子においてICSIを行ったうちで紡錘体を確認できたもの(紡錘体確認群)が84.4% (394/467)、紡錘体を確認できなかったもの(紡錘体未確認群)が15.6% (73/467)であった。

紡錘体確認群の受精率と分割率はそれぞれ68.5% (270/394)、74.1% (292/394)、紡錘体未確認群の受精率と分割率はそれぞれ54.8% (40/73)、62.7% (45/73)であり、紡錘体確認群の方が受精率、分割率ともに有意に高かった。

胚盤胞到達率は、紡錘体確認群では41.9% (104/248)、紡錘体未確認群では35.1% (13/37)であり、2群間に有意差はなかった。

紡錘体が第一極体直下でないものを23.1% (91/394)認め、受精率および分割率は62.6% (57/91)、67.0% (61/91)であった。また、紡錘体確認群での移植あたりの妊娠率は37.8% (17/45)、紡錘体未確認群では0% (0/5)と紡錘体確認群が有意に高かった。

- (1)紡錘体の有無と胚発育との関連性が示唆された。
- (2)ICSI前の紡錘体の位置関係は受精率の向上に寄与する可能性が示唆された。
- (3)紡錘体の有無が妊娠率に関与することが示唆された。